発達障害児の余暇活動支援「きらめきハッピーキャンプ」

太田ひろみ[1]・楠田美奈[1]・場家美沙紀[1]・東宮繁人[2]・江頭説子[3]
杏林大学1) 保健学部看護学科看護養護教育課程　2）保健学部健康福祉学科　3)医学部医学教育学

方法

地域の**発達障がい児と家族を対象とした野外活動をサポートするキャンプ**を実施した。

ワンデイレクレーション　*2019年7月13日（土）*

参加児童と学生が顔を合わせ、共に遊ぶことで親睦を図り、初対面の人に対する子どもたちの緊張感を軽減し、キャンプ当日に子どもたちが安心感を持って参加できるようになることを目的としてワンデイレクレーションを実施した。

野外活動の実施　*2019年8月10日,11日*

実施場所：埼玉県秩父郡小鹿野町

参加者：児童17名（5歳～13歳）, 保護者16名, 学生30名、地域支援者4名,教員５名　合計72名。

活動：川遊び、物づくり、学生と保護者の情報交換会

参加家族の感想

子供の特性上、心配や不安が強いので事前の顔合わせと担当学生さんとお話をする時間をとっていただき、子供はキャンプ当日の具体的な流れを知り、担当学生さんと面識を持つことでとてもスムーズに当日を迎えることが出来ました。

叱られない環境で、これだけ手厚くそして子供の名前を呼び大事にされると、子供は沢山の自信とパワーをもらえるんだな、と改めて思いました。

帰宅の途についている最中に、突然「来年も絶対に行きたい！」と言われたのには、本当に驚かされました。

主人も私も、それぞれお父さん、お母さんたちとお話しができて癒しであり、勉強にもなりとてもよかったです。

担当の学生さんが本当に大好きになって、帰ってからもずっと楽しかった思い出を話しています。子どもは来年ももちろん参加したいと申しております。もう少し大きくなったら大学生さんのお手伝いとして、そしてゆくゆくは杏林大に行きたいそうです。

学生の学び

自分のしていることが誰かのためになっていると実感でき、とてもうれしかった。大きなやりがいを感じることができた。

「発達障がいがある子」という先入観で接するのではなく、接する上で一人の子どもとしてその子を見ることが最も重要だと実感するボランティアであった。

ご家族の話を聴いて、学校で通常学級から特別支援学校への転校を勧められたご家族・子どもの気持ち、それを伝えるときの学校側の配慮の少なさ、発達障害のある子どもをもった保護者の思い、支援してほしいポイントなどを知ることができた。

発達障害のある子どもを持つ家族の悩みを知り、子育てのむずかしさを実感することができた。こういった家庭に寄り添い、悩みを解決できる社会福祉士になりたいと思った。

周囲に理解がある人がいれば、発達障がいのこどもたちが自分のペースでのびのびと楽しむことができることが分かった。